2020 年 3 月 12 日

卒業式・修了式

院長【告辞】

福岡女学院
院　長　　寺 園　喜 基

福岡女学院大学、福岡女学院大学短期大学部を卒業される皆さん、また大学院を修了される皆さん、おめでとうございます。コロナヴィールス感染症の流行により緊迫した雰囲気の中ですが、このような式典をもてますことに感謝しております。関係の方々にもお喜びを申し上げます。

喜ばしいこの時に、わたしは短く２つのことを申し上げたいと思います。

第１は、学院聖句を胸に秘めて、生きる指針にして欲しいと思います。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」という言葉です。水の少ない地域のぶどうの木は、地下数十メートルも深く根を下ろして養分と水分を吸収するそうですが、キリストは神の命の深みから汲み上げて、この命にわたしたちをあずからせて下さいます。こうして、わたしたちは命をいただいているからこそ勉強し、仕事をし、生活をするのです。この命は一本の枝として、キリストの命という大きな木の幹に繋がっているということ、このことを基盤として、毎日のチャペル礼拝や聖書の授業を通して、キリスト教について学び、またキリスト教の持つ普遍的価値、つまり平和、自由、愛、人権などを普遍的な価値観として身につけたことと思います。これらも、さらに、人間として大きく成長されるようにと、希望いたします。

第２は、皆さんは福岡女学院の卒業生であることを誇りとして欲しいと思います。或る人が「福岡女学院はどんな学校？」と尋ねたら、他の人がそれに対して、誰々さんが、例えば、山田さんが、卒業した学校ですよ、と答えるでしょう。皆さんは意識してもしなくても、福岡女学院という看板を背負っているのです。それだったら、喜んで、誇りをもってそうしてください。誇りをもつとは、傲慢になることではありません。むしろ社会のために率先して奉仕することです。そして社会に役立つ奉仕者こそが社会の善きリーダーになるのです。皆さんは今後、社会に役立つサーバントになれるように自分を磨き、またそれによって社会をリードする人になれるように、人間力を形成してください。そのために、傲慢にならないで謙遜な心を、また卑屈にならないで毅然とした心を、養っていただきたいと思います。

以上、学院聖句と女学院卒業生の誇りという２点についてお話ししました。
今後の人生の歩みの上に祝福を祈って、お祝いの言葉といたします。

本日はおめでとうございます。